2008年12月25日発行

CONTENTS

● 2008 委員会中間活動報告	1 . 7
第12回AMEI NAMM2009ビジネスツアーについて	7
	8

委員会中間活動報告







AMEI/MMA合同会議(サンフランシスコ会議)



MIDI規格委員会では、今期の事業計画で、MMAと4回の合同会議開催を計画し、さる6月5日、6日の両日をAMEIにて、9月29日、30日の両日サンフランシスコにて、また12月3日から5日まで東京AMEIにて開催しました。会議の内容については、本文中でレポートいたしますが、主にHDプロトコルに関する審議が活発に行われました。また、製品安全環境委員会においては、化学物質管理についての法規制がEUを起点に強化される中、「世界の化学物質管理の規制動向」と題した環境セミナーを9月29日に浜松アクトシティーにて開催しました。当日は会員企業9社から56名の参加があり、化学物質管理への関心の高さがうかがえました。

社団法人音楽電子事業協会

2008 委員会中間活動報告

1 MIDI規格委員会

最近、ボーカル合成、DJ機器、ループシーケンサなど、新カテゴリーの商品が売れてます。実際の購入後に「MIDIとは?DTMって何?」というユーザが増えています。新規ユーザにもオープンでわかりやすい規格を目指したいと考えます。



AMEI/MMA合同会議 サンフランシスコ

●MIDI 1.0部会

Visual Connect

MIDIを用いて演奏パフォーマンスと映像を結びつける機能は、2002年AMEIに提案されました。しかし、当時主流の映像機材は、いわゆるポン出しでのメカニカルな反応遅れなど、リアルタイム・パフォーマンスとの結合困難度から、広く利用できるかどうかという点において、合意に至りませんでした。今日、映像データはハードディスクやメモリなど、取扱いが容易で高速な媒体上にあり、映像を使用する自由度は大きくなっています。このような状況の変化に伴い、MIDIを用い演奏パフォーマンスと映像を結びつける機能をVisual Connect(仮称)として、RPに向けた検討を行っています。



AMEI/MMA合同会議 東京

●技術研究部会

技術研究部会は月1回の部会を開催し、主に「仮 称HD Protocol」の検討を行ってきました。

本件はMMAでも審議が進んでおり、MMAとの合同会議を6月、9月そして12月と3回開催しました。

プロトコルに関しては、例えばMIDII.0のSysexのような長いメッセージの送り方、複数の長いメッセージをマージする際の問題、タイムスタンプ等の新規メッセージに関する話、MIDII.0との変換について議論しました。プロトコル以外では物理層に関する話、コネクションマネージメントへの要求事項についての議論を行いました。

プロトコルに関しては本年度中にまとめることを 目標に検討を進めていますので、皆様の積極的な参 加をよろしくお願いします。

<AMEI/MMA合同会議>

9月29日、30日の両日、サンフランシスコにてHD プロトコルに関する合同会議が開催されました。

AMEIからは技術研究部会のメンバー4名、MMAからは12名の出席で、終始和やかな雰囲気のもと、MMAから提示されている2009年夏にプロトコルのVotingを行うという日程案を軸に、マーケティング面、技術面、スケジュール面について、予定の議題を一通り話し合うことができました。

まず会議の冒頭AMEIからマーケティングの重要性を改めてMMAに伝えました。見解にまだ隔たりのあることを感じさせる点もありましたが、会議後直ちにMMA側でもBusiness and Strategy WG を発足させることが決定されるなど、マーケティング面の検討が重要というAMEI側の主張については、真摯に受け止めて頂けたように思います。

二日間の会議の大半を割いて行われた技術面の検討では、プロトコル仕様の検討、トランスポート層の検討、AMEI側資料によるMIDI1.0とのプロトコル変換の検討などが、MMA側による実験デモも交えて行われました。

実験では、バイオリンの弓にセンサーを搭載して位置情報や張力などの演奏情報を取り込んだものを、PCから別のPCへリアルタイムに伝えるデモなどが紹介されました。このような実装実験のデモが紹介されたのは今回が初めてで、検討が実装レベルにまで進んでいることを示すと同時に、これまでほとんど示されていなかった

HDプロトコルを利用した具体的な製品イメージの一端 が垣間見えるデモとなりました。

プロトコル仕様の検討では、詳細仕様を詰める作業の一方で、基本設計レベルとも言える全く新しい提案もMMA側から出されました。これは、例えば弦楽器の弓の動きや張力など、各楽器特有の複数のパラメータ情報を、一つのメッセージにまとめて送るというアイディアで、そのニーズや有用性については頷けるものの、提案された実現方法についてはMMA内部でもまだ異論があるなど相当に議論の余地のあるもので、引き続き双方で検討することとなりました。

スケジュール面では、AMEI側から全体の規格化まで最善で3年必要との見通しを示したのに対し、MMA側はもっと期間を短縮したいとのことでした。

全体として今回の会議は、規格化へ向けてのMMA 側の動きに加速がかかって来たと感じさせると同時に、 まだ解決すべき課題も多いことを印象付けるものとな りました。今後はAMEI側にも迅速かつ幅広い検討を 追られる事案も多くなるのではないかと思われます。



AMEI/MMA合同会議参加メンバー

2 著作権・ソフト委員会

著作権・ソフト委員会は音楽配信部会(NMRC: ネットワーク音楽著作権連絡協議会を通じた活動)、カラオケ部会及びソフト規格部会の3つの部会活動と、各部会及び各委員会活動の情報共有、上申された提案の議決及び意見交換の場としての定例会活動で成り立っています。定例会は8月を除く毎月木曜日に毎回40名を越える参加者の下に実施されています。

又、早稲田大学理工学部(創造理工/知財・産業社会政策領域)での著作権講義(森康晃教授)にAMEIとして朝日新聞社と共に協賛し、10月3日より講義がスタート、戸叶委員長と堀江音楽配信副部会長が講義を受け持っています。AMEI会員は、聴講することができますので、ご興味のある会員は事務局までご連絡をいただきたいと思います。

以下、各部会の活動状況を報告いたします。

●音楽配信部会

音楽配信部会はネットワーク音楽著作権連絡協議会 (NMRC) を通じて、管理事業者、関連団体との協議、意見交換及び文化庁への意見活動を行っています。以下に、今年度の活動を箇条書きいたします。

- ・サブスクリプションモデルについては、同時に再生できる端末が1台に限定される携帯電話の場合は、下支えを77円から30円に読み替えるということでJASRACと合意いたしました。
- ・JASRACとの昨年よりの協議を継続している「音楽以外の著作物を主たる配信目的とする商用配信」の見直しにつきましては、既にご紹介していますように「WG1:電子出版」「WG2:動画」「WG3:教育・ゲーム」の3つのカテゴリーでWGを構成して進めています。WG1では、出版業界4団体による「歌詞WG」にてインタラクティブ配信における歌詞の部分使用に関しての協議、意見交換を実施していますが、まだ結論には至らず継続協議となっています。WG2ではau「リスモチャンネル」DoCoMo「ミュージックビデオチャンネル」における有期限ダウンロードの音楽PVの利用についてのみーつのコンテンツにつき3.6%にて合意しましたが、その他の領域につきましては、協議は停滞している状況です。WG3につきましても、協議の進展はありません。
- ・イーライセンスとは、サブスクリプション及び音声番組 の規定に関して合意し、10月より新規定となっています。 又、来年の4月より著作権管理事業に本格的に参入 予定の(株)アイ・シー・エージェンシーと規定に 関する意見交換を実施しました。
- ・JRC、イーライセンス、ダイキサウンドとのストリーム 使用料按分協議は2006年4月から2008年3月末までに ついての業界標準按分比が確定し、合意に向けての 最終段階となっています。
- ・JASARCの韓国楽曲管理除外の問題につきましては、 NMRCとしての要望書を提出しました。
- ・NMRC拡大実務WGでは、原盤利用報告の標準化を テーマに(社)音楽出版社協会(MPA)との間で昨年、 大枠について合意し、その後も4つのスタディグループ (STG)「原盤利用報告標準フォーマット詳細検討STG」 「普及啓蒙STG」「メタデータ標準化検討STG」「配信 許諾契約書統一フォーム検討STG」にてMPAと継続 的に協議を継続してきました。現在も進行形の部分も ありますが、ほぼ固まってきましたので12月には NMRCとしての説明会、来年3月にはNMRC/MPA共 同主催の説明会をご案内する計画となっています。

●カラオケ部会

カラオケ部会は、JASRACと業務用通信カラオケ規 定料率の見直しについて約3年間に渡り継続協議し、利 用曲目のEDI報告及びアクセス回数データを提供する ことによる減額措置の大枠合意に達しています。合意 書の内容等について引き続き協議を継続しています。

又、カラオケに係る音楽著作権管理に関する情報 交換会(日本スタジオ協会、カラオケ使用者連盟、 社団法人全国衛生同業者組合、全国社交飲食業生活 衛生同業組合連合会、全国飲食業生活衛生同業組合 連合会、全国旅館生活衛生同業組合連合会、全国カ ラオケ事業者協会、社団法人音楽電子事業協会)の 連盟で8月4日に「現状の著作権管理事業法に関する 意見」を文化庁に、「現状のカラオケ演奏権に関す る意見」をJASRACに提出しました。

イーライセンスとの業務用通信カラオケ規定に関する協議が約1年ぶりに再開されました。

カラオケ事業各社は、今年度も警察庁からの要請 に応え飲酒運転根絶キャンペーンにポスター掲示に よる協力をいたしました。

●ソフト規格部会



MMA/GCP-WG会議

ソフト規格部会は、2つのワーキンググループの活動を行っています。

GCP-WG(電子楽器内蔵コンテンツ保護に関するWG)では、今年の4月にAMEI統一見解書「AMEIは電子楽器内蔵コンテンツについてこう考えます」を発表しました。

その後、AMEI会員企業を含む電子楽器メーカーの 音色波形データを収録したCD-ROM/DVD-ROMが第 三者によりネット販売され、又ネットオークション にて出品されていることが判明しましたので、この CD-ROMを入手し収録されている音色波形データを 調査したところ、会員企業の電子楽器製品の音色波 形データを取り出し複製したものが含まれていたこ とから、AMEIとしての対応を協議してきました。 11月中旬に先方の行為を自主的に止めさせることを目的として警告書を送付しました。DMN-WG(インタラクティブ配信に於ける演奏データの可視的利用に関するWG)は外国楽譜の許諾に向けての活動にむけ準備をしている最中です。

3 製品安全・環境委員会

環境問題研究部会平成20年度上期活動報告

環境問題研究部会は、楽器を初めとするハード製品を製造しているメーカーが、ほぼ隔月に東京と浜松で交互に部会を開き、製品に関連する環境問題についての情報を交換しています。

2006年のEU RoHS指令の発効、2007年の中国 RoHSそして2008年EU REACH規則の予備登録開始 と国際的環境規制が急激に強化されてきています。

そのような状況下で環境問題研究部会では、昨年の中国RoHSセミナーに続き今年は「世界の化学物質管理の規制動向 ~REACH規則を中心に~」と題したセミナーを開催しました。大変大盛況で会員各社の関心の高さが伺えましたが詳細な報告は別途の特集をご覧ください。

今後も環境問題研究部会では、部会活動を通じて 世界の環境規制に対するコンプライアンスの確保に 努めていきたいと思います。

2008年度上期 製品安全・環境委員会 活動報告

市場における製品の安全性や信頼性の向上および 環境負荷の低減を目指し、2つの専門部会が隔月ペースにて東京・浜松で交互に部会を開き、主体性をもって最新情報を収集、交換活動しています。

●安全規格部会



安全規格部会会議

安全規格においては、来年に発行予定のIEC 62368 に関し、その国際審議の内容や進捗の確認を行いました。また、EMC規制については、2010年発行を目

指しているマルチメディア規格CISPR35に、当部会より電子楽器の測定条件を提案しています。

今年度は、上記活動に加え、安全規格の要求事項 についての勉強会も行っています。

勉強会では、米国ULが公表している規格要求事項の解釈を項目ごとに読み取り、製品構造や試験条件はどうすべきかを討議、安全規格部会としての共通見解をまとめて行く作業を進めています。

●環境問題研究部会

製品を取り巻く国際的環境規制は、2006年の EU_RoHS指令の発効、2007年の中国RoHS、そして 2008年EU_REACH規則の予備登録開始、と急激に 強化されて来ています。

このような状況の中、当部会では昨年の中国 RoHSセミナーに続き、今年は「世界の化学物質管 理の規制動向~REACH規則を中心に~」と題した セミナーを開催いたしました。 セミナーは大変盛 況で、会員各社の関心の高さが伺えました。

詳細報告は別途の特集をご覧ください。

今後も部会活動を通じて、世界の環境規制に対する「コンプライアンスの確保」に努めて行きます。

製品安全・環境委員会 環境問題研究部会主催セミナー「世界の化学物質管理の規制動向」



環境セミナー

製品安全環境委員会環境問題研究部会では、世界的な製品に係る環境関連規制の強化の潮流に対応し、国内・外の法令・規制の動向について情報交換等を行っております。

近年、とりわけ化学物質管理についての法規制が EUを起点に強化されてきています。 2008年7月より 予備登録が始まった「REACH規則」は、従来40ほ どもあったEUの化学物質規制を一元化しようとい う壮大な意図を持った規則です。

EUで製品を製造又は販売する企業の全てに関係して

くる「REACH」等の化学物質規制に、企業としての対応をどのように進めていくべきか悩ましいところです。環境問題研究部会では、これら規制の本質と実態・それらへの具体的対応を解説するセミナーを9月29日浜松市のアクトシティコングレスホールにて開催いたしました。



松浦講師 産業環境管理協会

講師は、産業環境管理協会の松浦様をお招きしました。松浦様は、測定・分析器メーカーの日本電子(株)にて品質・環境を担当し、定年退職後、産環協において講演・コンサルタント等を精力的に行っておられます。

以下に講演の内容を紹介します

・リスク管理の考え方

化学物質法規制には「リスクマネジメント」の視 点で対応するべきこと。

例えば、表面には出てこないがEUのRoHS指令違反も多く摘発されており、企業対応の評価には「デューディリジェンス(当然支払うべき努力)」が判断基準となっている。

・世界の化学物質規制の潮流

1992年の「地球サミット」における「リオ宣言」で地球環境問題に世界各国が協力して取り組んでいく原則が合意された。

2002年の「ヨハネスブルク会議」では、「予防的 取組みにより人の健康と環境にもたらす著しい影響を最小化する方法で生産使用」することを、 2020年までに達成することが決められた。

EUの一連の化学物質規制強化はこの2020年を目標としている。EU以外の国も同様の努力が求められており、それぞれ化学物質規制の強化に向かっている。

・REACH規則の概要

EUに従来からあった危険な化学物質の禁止や使用制限などの法規制も、整合を取りながら順次 REACHの中に取り込んでいくことになっている。

・「物質・調剤」を輸入するか、「成形品(製品のこと)」中の「物質・調剤」が「放出が意図」されている場合に登録が必要となり、予備登録すれば、

正式登録まで最大11年の猶予がある。

- ・成形品中にSVHC(高懸念物質)が0.1%以上含まれ、かつ総量が1トン以上ある場合は届出が必要
- ・上記の場合1トン未満でも、顧客消費者に安全取 扱情報を45日以内に提供しなければならない。

かなり盛り沢山で深い内容なので、その場で全て を理解することは困難でしたが、現在世界で起こっ ていることの概要とその重要性は感じていただけた のではないかと思います。

今後も、会員企業の必要に応じたセミナー等をタ イムリーに企画していきます。

4 MIDI検定委員会

MIDI検定委員会は、委員会を6月25日(水)、9月 10日(水)、11月12日(水)と3回開催し、今年度の MIDI検定の内容、1級内容の検討、指導者検定他に ついて検討してきました。

又、委員の交代に伴い副委員長にローランド(株) 井原正史氏、アイデックス音楽総研(株)上杉尚史 氏を選出いたしました。

以下、現在までのMIDI検定関連の活動報告をいたします。

指導者認定講座は、昨年までと同様に4級指導者、3級指導者、2級(筆記)指導者認定講座を4月から8月までの日曜日に東京、大阪にて開催、4級69名、3級49名、2級(筆記)45名の新たな指導者を認定しました。

又、今年は新たに2級実技指導者認定講座を実施 し、当初10月12日(日)東京、10月13日(月)大阪 で案内をしたのですが、反響が大きく10月17日(日) 東京、11月3日(月)大阪と追加での実施をし、131名 の指導者を認定することとなりました。



2級実技認定講座(東京会場)

今年度のMIDI検定試験3級、2級1次筆記試験の受験者数が3級930名、2級筆記265名合計1,195名(前年

比92%)と今年も減少しましたが、この4年間ほど 前年比80%台で推移していましたので何とか今年を 下げ止めにしたいところです。

又、MIDI検定試験4級に関しては、ガイドブック「ミュージックメディア入門」をDAWと呼ばれる現在のMIDIとオーディオの状況にも対応したものに4月に改定し、年間を通して昨年よりも多くの受験者になる見通しです。

今年度後半は、2月から3月にかけては2級2次実技 試験が予定されています。又、今年度中のMIDI検 定1級の打ち出しを目指して検討を重ねる予定とな っています。

5 MMIプロジェクト

MMI推進プロジェクトでは、昨今着うたに主役の 座を譲った着メロ市場を、業界を挙げて掘り起こし 直そうという考えのもとに活動準備を進めていま す。

まずMMIを使用し、既存の着メロコンテンツを再利用出来て、AMEI会員企業様に公平にビジネスチャンスが与えられるアプリケーションをAMEI会員企業様に作っていただきました。

この後キャリア様のご賛同をいただいた上で、会 員企業様が公平に参加できる、新たなサービス展開 を探って参ります。

現状は未だ活動準備段階ですが、キャリア様のご 賛同がいただけ次第、具体的なサービス立ち上げに 向かう予定です。

6 透かし推進プロジェクト

【MMAにISMC規格のRP化についての提案書を送付】

透かし推進プロジェクトは2000年5月にAMEI総会にて承認され発足致しましたが、発足以前からAMEIプロテクト部会にて防止・抑止の技術評価や透かしの階層化研究、実証実験、社会的な抑止の仕組み構築などを長期に亘り活動しておりました。MMAへの公式な告知は1999年のISMC(International Standard MIDI Code)規格原案完成をもとに翌2000年2月5&6日、米国LAにて開催されたAMEI・MMA(The MIDI Manufacturers Association)ミーティングにて発表しております。当時はMIDIsignではなく、「AMEI Watermark」というテーマでMMA会員に概要を説明し、継続協議案件(英文ドキュメントを充実して再協議)とし

ました。その後AMEIとMMAとの間で何回か協議をおこなったのですが宙に浮いた状態になっておりました。主な理由はMIDIsignエンコーダーの使用許諾と管理運用手法についてでした。

2008年7月のPjミーティングにて、ISMCと MIDIsignとを切り分けISMC規格部分=MIDIコンテンツにユニークな番号を付与するためのルール=を RPとしてMMAに提案することを議決し、飛河MIDI 規格委員長のご協力を戴きMMAに提案書を送付致しました。現在MMAでRP化の検討をしています。 ISMC規格の利用環境の整備を着実に進め、これからも会員各位の利用促進向上に努めてまいります。

7 事業委員会

下記の2つのテーマにつき9月16日に事業委員会を 開催し、検討をしました。

テーマ1:

ワールドレコーディングコンテスト企画に関する検討 会員より提案のあった、標記企画について事業委 員会委員に加え、レコーディング機器を製造・販売 している会員企業にもオブザーバー参加してもら い、その実施可能性について検討を行った。 結論としては、主旨には大いに賛同できるが、エネルギー、経費等の観点からAMEIとしての主催は難しいとの結論となった。また、同様の企画に関しての協力要請があった場合については、前向きに検討していくこととなった。

テーマ2:

MIDI関連普及イベントについて

AMEIのMIDIの普及推進策としてはMIDI検定があるが、資格取得といった検定とは違う切り口での対策について、当委員会が担える企画に関しての意見交換を実施した。

ユーザーのCGM(*注)等での投稿作品制作への 興味が高まっていることを踏まえ、DTMマーケット拡大に貢献できるようなイベントを実験的に実施 するという方向で今後イベントの内容について検討 をしていくこととなった。

*CGM: Consumer Generated Mediaの略、シージーエムと呼ばれる。情報媒体(メディア)の中でも、消費者自らが情報を発信するメディアの総称。消費者発信型メディアともいわれ、具体的には、ブログやメルマガ、BBS,メーリングリスト、ソーシャルネットワーキングサービスなどがある。

第12回AMEI NAMM2009 ビジネスツアーについて

例年、AMEI Newsの誌面を借りて、ツアー募集を 行ってきましたが、今年度はメールによる会員各位へ の募集案内へと切替えました。

これは従来の誌面による募集では、ツアー募集締切り時期がどうしても遅くなり、ホテルの部屋等確保しておくためのリスクもあるため、早くに募集を締切ることにより余った部屋のキャンセルには手数料はかかってきません。

併せて、滞在先のホテル予約をNAMMを通して AMEI事務局で行い、飛行機及び現地での送迎用専用 車の手配を、旅行会社へお願いすることによるツアー 費用の削減に努めました。

数年前より、NAMM Show会場のあるカリフォルニア州アナハイムのNAMM期間中のホテル予約は、NAMMを通して行わなければ、難しくなってきています。

従来行ってきた全てを旅行会社委託したNAMMツ アーにおいても、NAMMの会員でもあるAMEIの名 前で、旅行会社がホテルの確保を行うといった、変則 的なものでした。

また、近年原油の高騰による、燃油サーチャージが 値上がりし、いくら航空運賃を下げても、追いつかな い現象に国内の航空会社から、シンガポール航空など 燃油サーチャージの安い航空会社に乗り換える乗客も 増えています。今回のAMEI NAMMツアーもシンガ ポール航空を選択しました。

このような結果、NAMM2009ビジネスツアーへは、 12名の申込みがあり、1月14日から1月20日ま で施行することになりました。

この場をお借りし、ご参加いただく皆様及びご協力 戴いた会員各社代表者の皆様にお礼申し上げます。



会員名簿

50音順 2008年12月25日現在

あ

アイデックス音楽総研株式会社 アップルジャパン株式会社

株式会社インターネット

インフォコム株式会社

え

株式会社エクシング

NECエレクトロニクス株式会社

NTTコミュニケーションズ株式会社

株式会社エムティーアイ

株式会社エンターブレイン

沖電気工業株式会社

株式会社音響総合研究所

か

カシオ計算機株式会社

株式会社河合楽器製作所

き

ギガネットワークス株式会社

株式会社キューブ

株式会社グリオ

クリプトン・フューチャー・メディア株式会社

クリムゾンテクノロジー株式会社

株式会社コピーライツ ビジョン

株式会社コルグ

株式会社サイバード

株式会社サミーネットワークス

株式会社シーミュージック

JVCエンタテインメント株式会社

阜村楽器株式会社

学校法人尚美学園

(F)

株式会社ズーム

株式会社鈴木楽器製作所

株式会社スリック

Œ

セイコーインスツル株式会社

株式会社セガ

そ

ソフトバンクモバイル株式会社

t_z

株式会社第一興商

株式会社タイトー

株式会社ダイマジック

株式会社タムラ製作所

7

ティアック株式会社

株式会社ディーアンドエムホールディングス

プロフェッショナル・ビジネス・カンパニー

8

東映ビデオ株式会社

有限会社トゥロッシュ

株式会社ドワンゴ

(E

ニフティ株式会社

学校法人片柳学園 日本工学院専門学校・日本工学

院八王子専門学校

日本シンセサイザープログラマー協会

学校法人電子学園日本電子専門学校

は

パイオニア株式会社

株式会社ハドソン

パナソニック モバイル コミュニケーションズ株式会社

ひ

株式会社BMB

ビープラッツ株式会社

3

株式会社フェイス

株式会社フォーサイド・ドット・コム

フォスター電機株式会社 フォステクスカンパニー

株式会社フュートレック

ベスタクス株式会社

み

株式会社ミュージックネットワーク

ミュージックノート株式会社

P

ヤマハ株式会社

財団法人ヤマハ音楽振興会

ヤマハミュージックトレーディング株式会社

株式会社ヤマハミュージックメディア

6

株式会社ラグナヒルズ

U

株式会社リットーミュージック

株式会社リムショット

3

ローランド株式会社

〈正会員会社65社〉

* 賛助会員

中音公司 (中華人民共和国)

株式会社博秀工芸

株式会社ミュージックトレード社

〈賛助会員会社3社〉

SRC 類スリグク

新入会員のお知らせ 弊社は、MIDIを搭載したオルゴール「カナデオン」 を開発いたしました。聞くだけのオルゴールから楽器として演奏ができる オルゴールの普及に貢献できればと願っています。

KANADEON

MIDI検定2級2次(実技)試験実施のお知らせ

第10回2級2次(実技)試験は次の4会場で実施されます

●東京会場:Windows使用会場

●東京会場: Mac使用会場 アップルジャパン株式会社 トレーニングルーム 平成21年2月21日(土)、22日(日)

●大阪会場:Windows & Mac使用会場 タイリンビル(AAホール3番館4F) 平成21年2月28日(土)、3月1日(日)

主催:社団法人音楽電子事業協会 協力:日本シンセサイザー・プログラマー協会

後援: (会場、機材、ソフト等の協力)(株)インターネット、(株)オービット・ミューズテクス事業部、ヤマハ(株)、 ローランド (株)

AMEI NEWS Vol.37 / 2008.12.25 社団法人音楽電子事業協会 機関誌

行: 計団法人音楽電子事業協会 事務局

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9 イトービル4F TEL 03-5226-8550 FAX 03-5226-8549

発行人:岩崎修三

編集人:高橋直樹(広報委員会)

編集協力:株式会社 博秀工芸

ホームページアドレス:http://www.amei.or.jp/